

IGF-1 (インスリン様成長因子) 猫の先端巨大症の診断補助に

IGF-1 (インスリン様成長因子)とは

成長ホルモンの刺激により主に肝臓で産生されるペプチドホルモンです。
成長ホルモンは体内での変動が大きく、測定も難しいため、
IGF-1が成長ホルモン分泌の指標として測定されます。

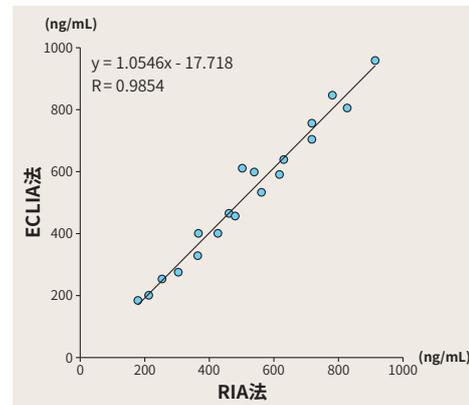
猫の糖尿病におけるIGF-1の測定意義とは？

インスリン投与量が1.0～1.5 IU/kg/1日2回以上の場合に測定する必要があります。
IGF-1が上昇している場合は、成長ホルモン産生性の下垂体腫瘍が疑われ、
先端巨大症を呈し、強いインスリン抵抗性を生じることがあります。

糖尿病の猫(n=1,221)の26.1%で高値(>1,000 ng/mL)を示すとの報告があります⁽¹⁾。
またIGF-1が高値(>1,000 ng/mL)の症例のうち画像検査が可能であった63頭中60頭
(約95%)が先端巨大症と確定診断されています⁽¹⁾。

既存の測定法との高い相関性

動物でのIGF-1測定におけるゴールドスタンダード
であるRIA法と、良好な相関が確認されています。



(1)Niessen, Stijn J M et al. "Studying Cat (Felis catus) Diabetes: Beware of the Acromegalic Imposter." PloS one vol. 10,5 e0127794. 29 May. 2015. doi:10.1371/journal.pone.0127794

【監修】日本獣医生命科学大学 獣医学部獣医保健看護学科臨床部門 准教授 森昭博 先生

検査規格

項目名	対象動物	材料/量(mL)	保存方法	測定方法	報告日数	参考基準範囲
IGF-1	猫	血清/0.5	冷蔵	ECLIA法	～5日	138～ 673 ng/mL

お問合せは各営業所にご連絡ください。